

第16回「京都市ごみ収集業務評価推進会議」議事録

日 時 平成30年3月29日（木）
午前9時00分～午前10時30分

場 所 職員会館かもがわ 第1会議室

出席者 （敬称略 五十音順）

委 員 大 内 龍 二（市民公募委員）
" 菊 池 健太郎（公認会計士）
" 小 島 一 芳（市民公募委員）
" 高 橋 かつ子（市民委員）

会 長 中 井 歩（京都産業大学法学部教授）

委 員 中 野 比佐子（市民委員）

事務局 京都市 環境政策局 循環型社会推進部 まち美化推進課

- 議事内容
- 報告事項
 - 1 平成29年度「京都市のごみ収集業務に関するアンケート調査」結果について
 - 2 「平成28年度の業務履行に対する評価及び意見」に対する本市の取組状況について
 - 3 まち美化事務所などにおけるごみ減量の取組状況について
 - 協議事項
 - 平成29年度の業務履行に対する評価及び意見について

○開会

○環境政策局循環型社会推進部長挨拶

部 長： 本日は年度末のお忙しい中、御出席をいただき誠にありがとうございます。また、日頃から京都市政、特に環境行政に対しまして御理解と御協力を賜りまして、重ねて御礼申し上げます。

平成21年3月に設置した本会議も16回目となりました。京都市ごみ収集業務評価推進会議は、単純なごみ収集作業だけでなく、あらゆる場面で環境政策に貢献していきたいという観点から、皆様の評価をいただき、市民サービスの向上につなげることが目的です。以前と比較すると、現場の職員一人一人の意識が様々な側面で変わってきたと感じております。ごみ収集作業の丁寧さなど、市民の方からもお褒めの言葉をいただくことも増えてきましたが、一方で運転マナーや収集作業後の片づけなどでクレームをいただくこともあります。そういったクレームがなくなるよう、市民の皆様から誉めていただけるような現場を作っていくために、皆様の意見をごみ収集業務に反映していきます。

京都市をあげて、ピーク時の平成12年度にあった82万トンを、32年度に39万トンまで削減するというハードルの高い目標を掲げていますが、ごみの焼却施設であるクリーンセンターはすでに5つあったものを3つにしており、退路は断たれている状況であり、達成しなければならない状況です。経費の削減はもとより、内陸都市京都には、燃やした灰を埋め立てる施設として東部山間埋立処分地がありますが、子どもの代までこの埋立処分地を使えるよう延命していくため、ごみ減量が必要であります。今の所、皆様の御協力をいただき、埋立処分地は、当初15年の使用年限で作られましたが、今のペースが続けば50年もつとされています。1日でも長く使えるよう、事業者の皆様も含めて達成に向けてごみを減量していかなければなりません。しかし、順調に減ってきたごみ減量のペースが、29年度に大幅にダウンし、昨年度比0.7%減であります。いつ増加に転じるかわからない状況であり、より一層職員が先頭にたって、ごみ減量の取組を進めていく必要があります。30年度は、まだまだ燃やすごみの中に入っている紙ごみと、全国的に注目されている食品ロスの二つにターゲットを絞り、30年度予算を重点的に配分し、取組を進めております。そのようななかで、基本である日常の収集作業をしっかりやっていくことが重要であると考えており、そのごみ収集作業について、忌憚のない意見をいただき、さらに業務の改善に活かしていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

○事務局紹介

会 長： 本日の会議は、「平成２９年度の業務履行に対する評価」を行っていくため、次第に記載されているとおり、第１に平成２９年度「京都市のごみ収集業務に関するアンケート調査」結果について、第２に「平成２８年度の業務履行に対する評価及び意見」に対する本市取組状況について、第３にまち美化事務所などにおけるごみ減量の取組状況についての報告を聴取し、それらの資料を参考に平成２９年度の業務履行状況について、活発な議論をいただき最終的に京都市長に対する「平成２９年度の業務履行に対する評価及び意見」として取りまとめたいと存じます。

それでは、まず、最初に配布資料の確認から行いたいと思いますので、資料確認を事務局からお願いします。

事務局から資料の確認及び説明

会 長： ただ今、事務局から「１ 平成２９年度京都市のごみ収集業務に関するアンケート調査結果について」、それから「２ 平成２８年度の業務履行に対する評価及び意見に対する本市の取組状況について」、最後に「３ まち美化事務所などにおけるごみ減量の取組状況について」、御説明いただきました。

それでは、項目ごとに確認をしていきたいと思います。まずは資料２－１，資料２－２，それから資料３に当たります「京都市のごみ収集業務に関するアンケート調査結果」についての報告，説明を受けましたが何か御意見・御質問はありますか。

委 員： 高齢な方のごみを収集するサービスであるまごころ収集について、周知を進めると良いのではないのでしょうか。まごころ収集を利用されている方の話を聞くことがありまして、その際に非常にありがたい制度であるとの声がありました。

事務局： まごころ収集ですが、好評をいただいております、年々件数が増えている状況です。しかし、京都市の一つの考え方として、他都市と比較しても地域の力が強い京都市であり、行政としてまごころ収集を積極的に進めていくべきなのか、一方で地域の方の力をお借りして、助け合いの中で定点までだしていただくという方策が良いのか、現時点で両手離しにまごころ収集を広めていこうという話には至って

いない状況です。今後とも、好評いただいている事実も含めて検討して、京都市としての方向性を決めていきたいと考えております。

委員： 地域で助け合いというのは、具体的にどういう形で進めていくべきなのか、分かり辛いところですね。まだまだこの制度を必要とされている方がいると思いますが、そのような方に、どのように周知していくのかは少し考えていただきたいです。

会長： 中学生がごみを持っていき、図書券をもらえるとといった取組を以前聞いたことがあります。小さなまちだからできているのかもしれないですが。あまり行政に偏るのも、地域の力に頼りすぎるのもよくないので、難しいところですね。

私がアンケートの中で面白いなと感じたのは、土日に資源物などを持ち込める場所がないのかという意見です。近年では共働きが増えて、親が朝は子どもを保育園につれていったりするご家庭などでは平日に時間がないことなどから、このような意見が出ているのではないかと思います。そのようなライフスタイルの変化や、家族構成の変化もごみ収集業務を進めていくうえで考えるきっかけとなる意見だと思います。

委員： 去年に比べてごみの減量のペースが鈍化したという話がありましたが、その理由や分析結果などはあるのでしょうか。

事務局： ごみの減量のペースが鈍化している一番の理由は、平成27年の10月に「しまつのこころ条例」を施行した条例の効果が薄れてきたことであると考えられます。条例の内容は、ごみ袋の有料化とごみの分別の義務化という市民生活に大きく踏み込んだ内容でした。条例改正当初は、不適正排出のごみに対して、一定の手続きを経た後、ごみ袋を開封して排出した方を特定するという話がマスコミなどでクローズアップされて、大きくごみ減量が進みました。条例の施行から2年経過し、効果が底打ち状態になっており、次の手を打っていく必要があると考えております。

会長： アンケートに表れているのは、質問17を見ると、ごみの分別を徹底するために重要と考えることは、昨年度では「市民一人一人の意識や習慣を変えていくこと」が1位であったが、今年度は「分別ルールの周知・啓発」が1位となっています。このことから、市民の方はごみをどう分別すれば良いのかわからないと見えます。ここらへんに、ごみ減量への次の一手のチャンスがあるように思います。

委員： 出し方がわからなくて、燃やすごみが増えている場合もあると思います。よごれたプラスチックやハンガーなど燃やすごみなのかプラごみなのかわかりにくいものもけっこうあり、出し方がわからない人は燃やすごみに出してしまったりしているのではないのでしょうか。生活スタイルの変化により、住む人が変わり、新しい人はごみの出し方がわからないのはしょうがない場合もあると思いますが、そのような人でもわかりやすいよう、ごみの出し方にも、多少のシンプルさが必要であるのではないのでしょうか。

委員： 今後、高齢化社会になると、複雑な分別方法では市民が対応してくれなくなっていくことも考えられますね。

事務局： 地域学習会に出向きますと、分別が始まって10年以上経過しているプラスチックの分別が、いまだにわかりにくいという意見があります。容器包装で使われるプラスチックと、ハンガーや洗面器のような製品そのものとの境目がわからないという意見もあります。京都市で分別して回収しているのは、容器や包装で使われたプラスチック製品であり、マークをみて分別をお願いしますとご説明させていただいているものの、やはりわかりにくいという意見があります。区役所にある環境拠点のエコまちステーションでは、多様な資料を作って、丁寧に説明することで、聞いていただいた方は納得いただいているものの、説明させていただく機会がない場合は、出し方がわからなければ燃やすごみに入れておられる方も多く、まだまだ黄色の袋に分別可能なものが入っている状況であります。祭などの機会に職員が出向いて行って啓発を進めていっているところでもあります。

委員： 普段から気になっている点を一つお伺いさせていただきます。ごみ収集業務をしている作業員の方が、ごみの集積場所から次のごみの集積場所に異動するときに、走り回っていて、すごく忙しそうにしています。いずれ交通事故などが起きると思いますし、あの状況では市民にあいさつができる状態ではないと思います。午前中に燃やすごみの収集作業を完了させる午前収集には、反することにはなると思いますが、ゆっくり作業を指導することも必要だと思います。

事務局： 安全で丁寧なごみ収集作業を行う一方で、素早く市民の皆様の前からごみをなくす必要があります。職員に対しては、日頃から安全作業に努め、効率よく収集するよう指導を行っています。市民の皆様には、ごみ収集業務を円滑に行うために、ごみ集積場所の定点化をお願いしているところでもあります。職員への指導と併せて市民の方々にも協力をお願いすることで、安全で丁寧な仕事を実現させたいと考えております。

会長： では、次に資料４－１及び資料４－２に基づき説明がありました「平成２８年度の業務履行に対する評価及び意見に対する本市の取組状況について」の報告、資料５「まち美化事務所などにおけるごみ減量の取組状況について」の説明について、何かご意見・ご質問はありますでしょうか。

委員： 平成２９年度のごみの減量ペースが落ちているというお話がありましたが、しまつのころ条例の効果が低下しているのは自然な話であると思います。資料の中で、生ごみと紙ごみに削減の余地があるとされていますが、今後は啓発の方法を工夫し、市民が捨てやすい状況を作り出していくことが必要だと思います。また、ごみ減量のための新たな方法として、市民の方々の努力を誉めてあげると良いのではないのでしょうか。しまつのころ条例は、分別を義務化し、不適正なごみは開封調査を行うといったいわゆる叱る方ですが、ごみ減量の努力をして効果があったということを広報し、目標までもう一步であるというという話などで市民のモチベーションを高めるのは、効果的なのではないのでしょうか。

事務局： 広報については、市民の皆様、事業者の皆様の御協力があり、ここまでごみの減量が進んできたという内容などは、これまでも周知してきたところですが、他にもさらに市民の皆様のモチベーションに訴えるような広報について、多様な方法を検討していきます。

会長： 例えばごみ袋に、ごみ減量の結果、これくらい効果がありましたとか、最終処分場が延命されていますなど、誉める内容の記載があれば、一人一人の個人的なモチベーションの向上はもちろん、自分が住んでいる京都市に貢献しているという気持ちにもなり、効果的だと思います。

事務局： これまでは、この一袋を処理するのにコストがこれだけかかっていますよという内容を記載していました。排出量に応じて、応分の負担をいただいております、減量に協力頂いている方には、ごみ袋が小さくなるからその分負担が減る、という言い方もしています。頂いたご意見も参考にさせていただき、市民の皆様の励みになるような啓発の仕方を検討します。

委員：子供たちへのごみ減量に係るアプローチは行っていますか。

事務局：小学校4年生は、学校で環境に関する授業を学校の先生にしてもらっています。また、夏休みの休暇の時などは、啓発の機会をいただければ学校などにも参ります。しかし、しまつのこころ学考もエコバスツアーも、参加者の年齢が高いので、若年層をどう啓発していくかが大きな課題だと考えております。

委員：子どもにアプローチできれば、子ども世代への啓発に加えて、子どもは発信力が大きいため親世代への啓発にもなると思います。所管の壁を越えて、教育委員会などと連携し、子どもへの環境教育を行うことができれば、子どもが興味を持って帰ったものは親やおじいちゃんおばあちゃんに伝えるし、子どもから言われたことは、親もおじいちゃんおばあちゃんもやってみようかとなり、非常に効果的にごみ減量施策を進めていくことができるのではないかと思います。

事務局：教材は環境政策局で作って、教育委員会に提供し、それにもとづいて授業を行ってもらえるなどの取組や、啓発を兼ねた下敷きを作って配布したりしています。しかし、日常の学校に出向いては現時点では難しい状況ですので、埋立処分地などの環境学習施設に社会見学にきていただいたりしております。来年度の事業では、大学生を対象にごみ減量サポーターに任命し、SNSで発信する取組なども検討していますが、子ども世代へどう啓発していくかは、しっかりと検討してまいります。

委員：近年の京都市内は、外国人観光客が多く、外部要因にかなり左右される状況にあると思います。年間4000万人外国人観光客がいると聞きますが、外国人のごみの問題について、排出量の情報などはあるのでしょうか。

事務局：現時点では、観光分野で排出されるごみの状況は、データで把握していません。ごみの状況は、多様な考え方がありまして、観光客が出すごみは、基本的には事業系であり、近年増加した観光客と比較して事業系ごみも増えているかという点、事業系ごみも減少傾向であり、詳細な分析は難しい状況です。

会長：様々なご意見が出てきました。まず、分別・ごみ減量が大きなテーマで、分別方法が複雑すぎるのではないかと、啓発の仕方、分別の仕方、それがどのような方法が適切なのかを検討していただきたいと思います。検討に当たっては、ライフスタイルが変わってきていることや、高齢化を踏まえて、中長期的な視点で検討

いただきたいと思います。

また、燃やすごみの午前収集については、生まれた時間を使って啓発したり、地域に入って行ったりできることから、評価できると思います。そして、ゆとりある作業、安全作業について、高い評価の数値が出ていると思います。今後も安全運転、安全作業の徹底をお願いしたいです。

SNSを使うなどで幅広い世代、特に子どもや高齢者、大学生へのアプローチを検討いただければと思います。午前収集ができているから、啓発などの次の一手を打つことができ、それがごみの減量につながる。そして、ごみの減量が進むと安全で確実な午前収集ができるようになるという良いサイクルになります。ここまで絞ってきた結果の現在なので、ここからさらにごみを減量するのは難しいとは思いますが、良いサイクルができていますので、確実に進めていただきたいと思います。

(「異議なし」の声)

会 長： 本日予定しておりました議題は全て終了いたしましたので、事務局へお返しいたします。

○閉会

事務局： 本日は長時間にわたりまして貴重な御意見を賜りまして、誠にありがとうございました。本日、頂戴しました意見をしっかりと踏まえ、今後の収集活動に生かしていきたいと思います。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

本日はどうもありがとうございました。